

Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art
PRESS RELEASE

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 2023年度展覧会スケジュール



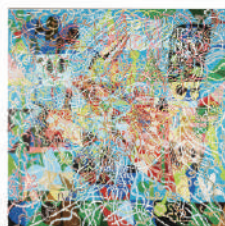
※2024年3月23日～猪熊弦一郎展開催予定



山城知佳子

3.21~6.4

山城知佳子《チンピン・ウェスタン家族の表象》
2019年
©Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko
Chiba Associates



中園孔二

6.17~9.18

中園孔二《無題》2013年 sasanao蔵
©Koji Nakazono, Courtesy of Tomio
Koyama Gallery



須藤玲子
NUNOの布づくり

10.8~12.10

Japan House Londonでの展示風景 2021年
©Japan House London



回復する

12.23~3.10

兼子裕代《AppearanceよりHalo》2019年
©Hiroyo Kaneko

開館時間 ▶ 10:00~18:00(最終入館 17:30 まで)

場 所 ▶ 企画展3階展示室C、常設展2階展示室 A.B

休 館 日 ▶ 月曜日(祝休日の場合は翌平日)、年末12月25日から31日、および展示替え期間

観 覧 料 ▶ 一般950円(760円)、大学生650円(520円)、高校生以下または18歳未満・丸亀市在住の65歳以上
各種障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

主 催 ▶ 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団(すべての企画展、常設展)



広報用画像

画像をご希望の方は二次元コードを読み込みの上、プレスページからご申請ください。



アクセス方法

当館へのアクセス方法は二次元コードを読み込みの上、ご覧ください。

お問い合わせ

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団
広報担当 奥本、鈴木
〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
Tel.0877-24-7755 / Fax.0877-24-7766
URL・www.mimoca.org E-mail・press@mimoca.jp



※タイトル、会期は変更することがあります。



山城知佳子《テンピン・ウェスタン 家族の表象》2019年
©Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

山城知佳子 2023.3.21(火・祝)～6.4(日)

国際的に活躍する山城知佳子の西日本初、大規模個展

山城知佳子(1976-)は、沖縄での暮らしで意識せざるを得ない事象を取り上げ向き合うことで、映像や写真を主とした作品を制作してきました。本展では、他者と共にどのように生き、未来をつくるのかといった問いを投げかけ、現代社会に新たな読みを与える山城作品の新作および近作を中心に、初期作品も参照しながらご紹介します。

協力：Yumiko Chiba Associates



中国孔二《無題》2013年 sasanao蔵
©Koji Nakazono, Courtesy of Tomio Koyama Gallery

中国孔二 2023.6.17(土)～9.18(月・祝)

最後を過ごした香川での、没後最大規模の個展

見る者に鮮烈な印象を与える絵画を多彩なバリエーションで表した中国孔二(1989-2015)。東京藝術大学卒業後、関東を拠点に制作活動を行っていましたが、瀬戸内海をのぞむ土地柄に魅かれ2014年末に香川県に移住しました。25歳という若さで生涯の幕を閉じましたが、その表現は現代社会を生きる私たちに今もなお強く訴えかけます。本展は中国が最後の時を過ごした香川県において、没後最大規模の個展として開催いたします。

協力：小山登美夫ギャラリー



Japan House Londonでの展示風景 2021年
©Japan House London

須藤玲子: NUNOの布づくり 2023.10.8(日)～12.10(日)

テキスタイルデザイナー須藤玲子の国際巡回展、日本初公開

須藤玲子と、須藤が率いる「NUNO」の活動を紹介します。思いがけない素材や多様な技術を用いるなど、アイデアあふれる須藤とNUNOのデザインは、身近な「布」へ新たな視点を次々に提示し、国内外で高く評価されています。本展は、サステナビリティの側面にフォーカスし、日本各地の職人・工場との協働作業や、素材の可能性を広げる様々な取組みについて、音と映像を交えたインスタレーションで展観します。2019年に香港のアートセンターCHATで企画・開催され、ヨーロッパを巡回後、日本での初公開となります。

企画：高橋瑞木(CHATエグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター) 会場構成：たしろまさふみ
アーティスティックディレクション：齋藤精一(パノラマティクス主宰) 協力：ジャパン・ハウス・ロンドン



兼子裕代《Appearanceより Halo》2019年
©Hiroyo Kaneko

回復する 2023.12.23(土)～2024.3.10(日)

現代美術が指し示す、今を生きる術

個人を脅かす事象が続く不安定な世界のなかで、私たちは今日明日、またその次の日と一歩ずつたゆみなく、静かな力に満ちた歩みを進めています。時に弱く、時に光を放ちながら他者とともに生きる私たちの姿や日々の生の喜びを表現した、国内外の作家による作品を通して、弱った心身の回復を試み、未来へと進む後押しをします。